吉野川ラムネット通信

Vol.16

2019 年 6 月吉日

失われていく自然

年々、夏が来るのが早くなる。この連休に、剣山の新緑の爽やかさを感じた数日後には、国内あちこちで、28 度～30 度の真夏日だった。海外でも氷河が溶け、洪水や海面上昇が起きている。この気候変動は、人間活動が原因であることは周知のこと。私たちの生活も本気で変えないと。悠長に構えている時間はない。

4 月 7 日、和田恵次先生（奈良女子大学名誉教授）を講師に迎え、「海と陸・川の狭間に生きる動物たち―その貴重性」について野外と座学の勉強会を県民活動プラザ NPO 強化事業の支援を得て、開催できた。

野外では、住吉干潟全体を俯瞰し、「この風景が大事だよ。」と先生は、参加した学生たちに語った。その上で、個々の生きものが、生息している場所を観察した。その後、マリンホールに移動して座学。「県庁所在地にこんなに多くのシオマネキが、いるのは、全国でも稀です。」「海と陸の移行帯は、海水と淡水が、混じる汽水域であり、そこが一番、護岸工事や埋め立てで失われやすい領域」と話され、高潮部より上部の重要性を強調された。動画を皆で見ながら潮間帯に分布する生きもの、その遺伝子分布の話や高潮部に生息するチゴガニなどのその特異な行動を紹介して下さった。また、先生の「カニダンス」に笑い、和んだ。先生の穏やかなお人柄に接し、知識だけでなく、自然に向き合う視点など色々と大事なことを教えて頂き、充実した勉強会となった。

さて、「日本の海岸線の総延長は，32,780 kmあり、国土面積が 25 倍もあるアメリカ合衆国の海岸線 20,000 kmよりも長い。しかし自然海岸の延長は、全体の 55.2％の 18,100 kmだけで、他は人工海岸と半自然海岸である」とのこと。そこにある全国の干潟面積は、約 5 万 ha（96 年）あるが、1945 年にあった全国の干潟面積の約 63％に減少している。しかも有明海諫早湾の干拓によって 1,500ha の広い干潟が失われた。

干潟は渡り鳥にとり、大事な休息と採餌の場所であるだけでなく、食物連鎖、生物の生産や有機物の分解（浄化）の重要な役割を担う。現在かろうじて残っている干潟を国全体で、保全しなくては、いけない。

藤永知子

吉野川とともに

福永美智子

吉野川河口から９㎞上流の北方（きたがた）の地へ　南方（みなみがた）の港町から嫁いで　半世紀が過ぎました。堤防の上に立つと　豊かで穏やかな川の流れに心が癒されます。周辺の田畑は、やがて田植えの季節を迎え、緑一色となります。

昨年は自然災害の多い年でした。当地への台風上陸も九月には連続し、吉野川水位上昇の様子が報道されました。その都度三人の子ども達から　電話がかかってきます。
「お父さんに増水した川に近づかないように言っといて」伝えますが、いつものことながら全く聞く耳もたず、長靴を履いて出かけるのです。夫曰く「川の様子を見とかないと。」見てどうなるの？と思うのですが，いつもの繰り返しです。

ジェーン台風により浸水被害　昭和 25 年

県立文書館より

彼にとっては、川の水量や家屋浸水に対する恐怖心が、八十路を過ぎた今も消えない様子です。
戦後の食糧難の時代、建設省の許可を得て、河川敷（外間（そとま））で、陸稲、落花生，さつま芋、麦などを　農業経験のない家族と一緒に栽培していたそうです。大雨や台風で増水すると急いで作物を掘り起こし、収穫するのですが、増水が早く　小さい弟が、目の前で溺れそうになった光景は、今も忘れられないと言います。名田橋が木橋の頃（徳バスは通行していた）大雨で橋が流されると、渡し舟が活用され、近所のおじさんが、船頭をしていた。・・・とか　聞かされました。

子どもたちからの「電話」にも全く耳を貸そうとしない夫の言動に　少し、同情の念を抱く今日この頃です。堤防には桜の木も大きく繁り、新しい車道も出来て　とくしまマラソンの復路コースにもなり、楽しみの一つになりました。
ブロッコリー、キャベツ、ほうれん草　などが豊かに育つ田園風景と共に広大な吉野川に恵まれた環境に感謝しながら、穏やかな日々を過ごしたいと願っています。

～吉野川礼讃14～

地名のおもしろさ

河野眞理

父の受け売りの近過去すら、もう失われつつある中吉野川最河口域の歴史・地理の事を語る機会があった。自ら学ぶことしきり。

以前「今切れ」について述べたが、まだそんな地名「喜来」があった。好字・佳字に転じているので、「喜びが来る」となるが、本来は「切れ合い」。洪水によって河道が離合集散する「切り合い」「切れ間」「きれあい」「きらい」となる。一説にはとあるが、川筋に多く、「また吉野川流域に42とも言う」とあり、これは納得の説である。

松茂町には喜来小学校があり、対岸下流に「中喜来」「向喜来（むこうきらい）」。旧吉野川が、今切川と分流する所（正に今切れ）、北島町に「新喜来」。市場町は「上喜来」「下喜来」。鴨島町「喜来」。

今は吉野川の直流堤防のため、なくなったが徳島にも「喜来」があった。

そう言えば、大阪に「喜連瓜破」（きれうりわり）という地名があり、この「きれ」も同義であろう。「喜連瓜破」あるいは「瓜破清水」（うりわりしょうず）の「瓜」は、切れば中から水が湧くように迸るたとえ、水の豊かさを表している。水の制御に苦慮（からす）しつつも水なしには生きられぬ、先人の地理感覚を思い知るものである。

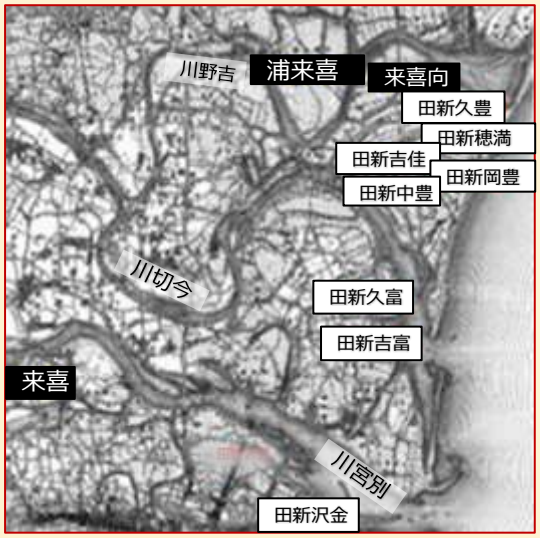
そうそう、「喜来」とともに吉野川の中に消えた「烏森」という地名も「空州」で水のない川の中州。あるいはそんな干上がった中州の河畔林に烏が群れている様とある。

今回新田の名称も「豊中新田」「豊久新田」「豊岡新田」「満穂新田」「富久新田」「冨吉新田」「金岡新田」「金沢新田」「末広新田」「万代新田」。「豊」「富」「金」そして「末広」

「万代」。この名称（地名）を考えれば、人々がどんな思いで最河口域の中州を干拓，干上げていったか　手にとるようではないか。「新田に黄金の稲穂が輝けかし」と。

地名は歴史の一部である。今年大嘗祭があり、麻植から「麁栲」（あらたえ）の進上がある。特別な太布であり、特別な「麻の植うる地」の名が失われたことを嘆くばかりだ。

古地図



現在の地

おいしい吉野川

クロダイ（チヌ）

体型は典型的な鯛、体高が有り泳ぐ力が強いため、釣り針に掛かると糸を切ろうと強く引き、釣り人は細い糸でやり取りを楽しむ。春先には産卵のため、浅場へ集合、キラキラヒラヒラと泳ぎまわる。これを「乗っ込み」という。透明度のたかった時代には良く見えたが、最近では残念ながら目にすることは出来ない。
河口から第十堰まで川の変化の有る所にチヌはたむろしている。流れの突き当たりや橋脚、テトラポット等が代表的なポイント。釣の好きな方は是非狙ってください。
チヌは雑食で生息する場所のエサの種類により、味、香りが大きく影響。吉野川には香りの良いエサが豊富なためチヌはとても美味しいのが特徴である。特に緑の幅広の海藻(チシャ海苔？)を腹一杯食べているチヌは何故かとても爽やかな味がするのは筆者の思い込みだろうか？

鯛と同じような料理で頂くと良い。特に生きの良い新鮮なものを煮たり焼いたりすると、身がはぜてとても美味しい。もちろん刺身も最高です。
小学生の同級生の両親が延縄で釣ったチヌの煮付けをごちそうしてくれた時の旨かったこと、忘れられない。

美味しい吉野川
ごちそうさまでした。　　**さちのちち**

イベントお知らせ

報告

1/31～2/5	4/7	4/21	5/19
吉野川を感じよう！Ⅱ 作品展	**和田先生による 学習会**	**春の吉野川を楽しもう**	**助任干潟で遊ぼう**
沢山の方がおいでくださいました。	午前住吉干潟で実地。午後学習会	良いお天気に恵まれのんびりとウォーキング	130 名の参加者で楽しみました

今後の予定

8/ 3	**住吉干潟市民調査　午後～**	シオマネキ等の個体数調査
8/10	**赤ちゃんガニを探そう(5~6 年生)**	シオマネキの稚ガニを探す
8/31	**住吉干潟市民調査　午後～**	シオマネキのチガニの個体数調査
9/28	**総会　10:30～12:00**	場所県民プラザ２階マリンホール
10 月	**満月の月見会　6:00～**	吉野川最河口パーキングエリア
10~11 月	**ウラギク鑑賞会**	時期は随時にお知らせ

会員募集中　会費：1 口 1,000 円

■お問い合わせ&お申し込みは事務局まで
■振込先：ゆうちょ銀行
吉野川ラムサールネットワーク
口座番号　01640―6 －52973

吉野川ラムサールネットワーク
事務局　藤永知子
■Tel：090－7268－9448
■Email：taikazann@hotmail.com
■HP:http:// www.yoshinogawa-ram.net
■facebook　吉野川ラムサールネットワーク